

A 2 みんなで実感してみよう

[参考事例 3] 地域散策

取り組み主体：城島地区地域活動推進会議

背景・目的

車中心の生活により、自分たちが住んでいる地域の魅力に気づく機会が少なくなっています。少子化・高齢化が進行する中、次世代に残し、活かしていく資源や資産を実感し、これからの地域づくりのテーマや課題を幅広い世代で考えるきっかけづくりをしています。

実施内容

ねらい

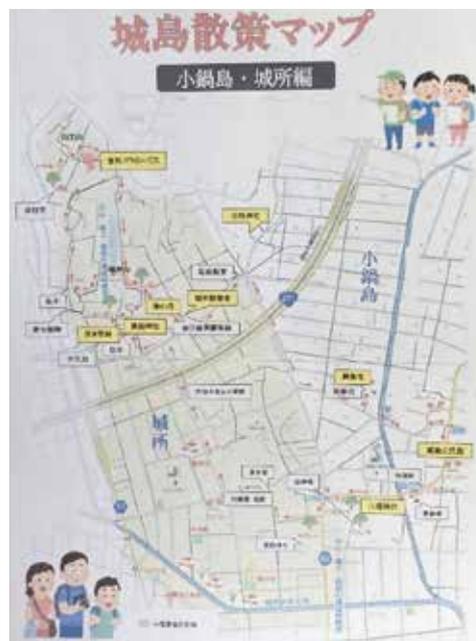
身近にあるが普段足を運ぶことのないスポットを多世代で散策することで、これからの地域づくりをみんなで考えるきっかけとする。

検討・実施のポイント

- ① 気軽に楽しく参加してもらえよう、親子や高齢者でも無理なく歩いていける範囲で語り合えるルートを設定し、意見を出しやすくする
- ② スポットを結ぶルート上では田畑やハウスでの栽培作物、特産物などの解説、富士山/大山などのビューポイントを準備しておく
- ③ 参加者に感想を聞き、地域の資源や資産を地域活性化にどのように活かしていくと良いかの簡単なアンケートを実施する

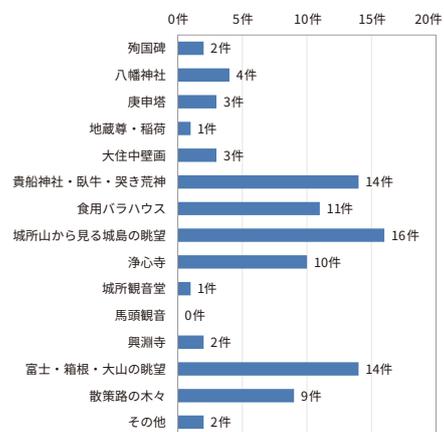
効果と課題

- 身近にある地域資源の良さを実感することで、郷土愛が醸成される。
- 幅広い世代に参加してもらうことで若い人の声を聞くことができる。
- 幅広い世代に参加してもらうためには、地域関係団体との連携・協働が必要。



地域散策地図

【他地域の人たちに紹介したい、もっと活かしていきたいと思った場所】 ※複数回答あり



アンケート結果のグラフ化

仕組みづくり Point

1

チーム(体制)

- ☑ 公民館と里づくり事業
実行委員会

2

プロセス(手順)

- ☑ 多世代に聞く
- ☑ 結果を共有する

3

ツール(方法)

- ☑ まち歩きでの実感
- ☑ 見える化(グラフ化)
- ☑ HPからの発信



散策スポットでの説明の様子



散策スポットに向かう様子

A 2 みんなで実感してみよう

[参考事例] 4 津波防災への取り組み

取り組み主体：撫子原自治会

背景・目的

自治会エリアの90%以上が海拔3~4mで、1~4mの浸水が想定される、津波・高潮に弱い地域ですが、約50年間河川の氾濫・災害などは無く、住民の防災意識はあまりありませんでした。そこで東日本大震災を契機に大地震に伴う甚大な津波災害に対する住民の意識改革と地域防災体制の構築をめざしました。

実施内容

ねらい

東日本大震災で地震・津波に対する関心が高まり、想定される津波の高さが6.9mから9.6mに見直されたことに伴い、津波の到達時間は6分と設定された。この6分以内に安全地域に避難すべく訓練を実施するとともに、高台の避難場所への具体的な避難ルートを選定し共有する

実施のポイント

- ① 独自作成の津波ハザードマップ、市と最短な逃げ地図等の作成
- ② 逃げ地図を用いて安全・最短避難ルートを選定し、全戸に配布
- ③ 毎年複数自治会との合同避難訓練の実施

効果と今後の課題

- 津波到達時間6分以内に避難できる安全・最短ルートを選定できた。
- 行政を巻き込み、複数の地域団体と避難訓練を実施。また、市助成金を活用し自分たちが探索し作成した最短な逃げ地図を全戸に配布できた。
- この活動を通じ、住民同士が助け合う気持ちが芽生え、住民の絆づくりを推進することができた。また、住民の防災意識の向上が図られた。
- 津波ハザードマップと逃げ地図の地域住民に向けた周知徹底と、無関心層への働きかけ。



2018年津波合同訓練風景



市と共同で作成した避難マップと逃げ地図

仕組みづくり Point

- | | | |
|---|---|---|
| 1 チーム(体制) <ul style="list-style-type: none">☑ 声を聴き、参加できる場づくり☑ 自治会、小・中学校 | 2 プロセス(手順) <ul style="list-style-type: none">☑ みんなで調べる☑ みんなで訓練し実感する | 3 ツール(方法) <ul style="list-style-type: none">☑ まとめ方☑ 避難マップでの見える化 |
|---|---|---|



なでしこ公民館で市と地区ごとで逃げ地図を用いてのワークショップ①



なでしこ公民館で地区ごとで逃げ地図を用いてのワークショップ②



平塚工科高校での避難訓練の様子



平塚工科高校体育館での避難訓練の様子



平塚ガーデンホームズでの避難訓練の様子①



平塚ガーデンホームズでの避難訓練の様子②